

令和3年度 丹波市施政方針

市民が誇りを持って「帰ってこいよ」と言えるまち、そして、
「帰ってきたい」「住みたい」と思えるまちの実現に向けて



— 目次 —

1	はじめに	1
2	社会の趨勢	1
	(1) 新型コロナウイルスを共に乗り越える	2
	(2) コロナの先の未来への挑戦	2
3	市政運営の方向性 — 帰ってきたくなるまちづくりに向けて —	3
	(1) 丹波市ならではのグリーン成長をめざす	4
	(2) デジタル技術による市民サービスの向上をめざす	5
	(3) ふるさと移住の促進をめざす	6
4	主要施策	8
	(1) 市民みんなで取り組む安全・安心できれいなまちづくり	8
	① 丹波市ならではのグリーン成長に向けた方針の検討	
	② 消防活動の充実	
	(2) 分野横断で取り組む生涯健康・生涯活躍のまちづくり	9
	① 福祉相談支援体制のさらなる充実	
	② 高齢者の保健と介護予防の一体的実施	
	③ 権利擁護支援センターのあり方の検討開始	
	(3) 希望が叶い、みんなで子育てを応援するまちづくり	11
	① 出会い・婚活相談の拠点づくり	
	② ハッピーバース応援事業の開始	
	③ 新たな病児保育施設の開所	
	④ 子どもや子育て目線の公園整備	
	(4) 地域から始める誰もが主役のまちづくり	13
	① 住民自治機能への支援の加速化	
	② 新たな公園整備に向けた基本計画の策定	
	③ スポーツ・文化の魅力推進	
	(5) 暮らしを支える快適生活のまちづくり	16
	① 暮らしを快適にする生活基盤整備	
	② さらなる防災・減災に向けた内水対策	
	③ 公共交通の充実による生活利便性の向上	
	④ 都市計画マスタープランや住生活基本計画の策定	
	(6) 産業振興と観光資源を活かしたまちづくり	19
	① 道の駅丹波おばあちゃんの里のリニューアル整備	
	② 観光周遊の再活性化	
	③ 歌道谷公共用地活用の方向性検討	
	(7) 暮らしを支える森と農業づくり	21
	① 暮らしと共にある森づくりの推進	

② 環境にやさしい農業の推進	
③ 農福連携の推進	
(8) 一人ひとりに寄り添い、将来の丹波市を担う人づくり	23
① コロナ禍がもたらす学びの変革	
② 山南中学校整備工事に着手	
5 新型コロナウイルス対策とデジタル化の推進	25
(1) ワクチン接種の推進	25
(2) 感染症による生活・社会影響の緩和	25
(3) デジタル化とさらなる行政改革の推進	26
6 令和3年度当初予算	27
7 結びに	28

[表紙写真]

丹波市役所から、西方の山々を望む

1 はじめに

寒さの中にも少しずつ春の訪れを感じる本日、議員の皆様のご健勝をお喜び申しあげますとともに、日頃のご精励に心より敬意を表します。

令和3年第116回丹波市議会定例会の開会にあたり、本日、ここに令和3年度当初予算並びに諸議案のご審議に先立ち、市政運営にあたる私の所信を述べさせていただきます。令和3年度の市政運営について、議員の皆様、そして市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

2 社会の^{すうせい}趨勢

本年度は、新型コロナウイルス感染症という新たな脅威によって、生命が脅かされ、社会経済活動が制限され、そして、会話や関わりを控えなければならなくなった1年でありました。私たちの暮らしに不可欠なコミュニケーションが危機を生むことに、誰もが大きな衝撃を受けました。今は、以前には想像できなかった、人と人が離れなければならない社会であります。

しかしながら、コロナ禍で目の前の対応に追われながらも、試行錯誤のなかで、オンラインで帰省したり、最前線で奮起されている医療従事

者への感謝と連帯を示す取組がされたりするなど、人と人の結びつきを保ち、人間らしく暮らすことの大切さを、心の底から実感した年でもありました。

昨年の春以降、感染拡大が第1波、第2波、第3波と続き、市民生活への影響が日に日に大きくなっていくなか、限りある財源を有効に活用し、市民生活の防波堤として、感染拡大防止と、経済活動促進の両立に注力してまいりました。

(1) 新型コロナウイルスを共に乗り越える

この国難ともいえる状況を引き起こした未知のウイルスに対しては、ワクチン接種の開始により感染抑制に向けた明るい兆しがあるものの、予断を許さず、さらに市民生活への影響が終息する見通しは、まだまだ不透明であります。

私の信条であります「市民に寄り添う」姿勢を全職員で共有し、創意工夫を重ね、感染拡大の影響を受けている地域経済や市民生活を支援し、この困難を市民の皆様とともに乗り越えなければなりません。

(2) コロナの先の未来への挑戦

そして、令和3年度は、この未曾有のコロナショックを乗り越えな

がら、コロナの先の未来を見据え、持続可能で強靱な地域社会に向けて、歩み始める年であります。国が描く新しい成長戦略では、これからの成長に欠かせないキーワードとして、グリーン成長と、デジタル化が掲げられており、経済と環境の好循環を創り出していくことが求められています。

丹波市においても、市議会や市民の皆様との対話を重ねながら、また、国や世界の動向を踏まえながら、コロナの先の未来に向かってしっかりとした基礎固めをしていかなければなりません。

3 市政運営の方向性 — 帰ってきたくなるまちづくりに向けて —

私が4年間をかけてめざすのは、丹波市を、市民が誇りを持って「帰ってこいよ」と言えるまち、そして、市外から見たときに、丹波市に「帰ってきたい」「住みたい」と思えるまちにしていくことです。

令和3年度は、「子どもたちに帰ってこいよと言えるまちづくり」に向け、今あるものを生かしつつ、しっかりとした土台を築く年であります。その土台となるのが、先の所信表明でも述べましたとおり、①市民が暮らしやすい丹波市であること、②子育て世代・現役世代が魅力的に感じる丹波市であること、そして、③帰ってこいよ・帰ってきたいと声かけ合える丹波市であること、の3点であります。

(1) 丹波市ならではのグリーン成長をめざす

1点目の「市民が暮らしやすい丹波市」に向けてスタートを切るのは、丹波市にあるすべての生命に関わりのある環境分野です。

昨年末、国では、「経済と環境の好循環」につなげるための成長戦略として、「2050年カーボンニュートラル」が掲げられました。そのなかでは、自然エネルギーの活用や、資源循環によるエネルギーの地産地消が挙げられています。

これからは、豊かな自然環境と里山景観を保全し、丹波市らしい暮らしを守りながら、市民生活の豊かさにつなげていく丹波市ならではのグリーン成長が求められます。これは、地域の様々な資源をつなぎ、環境・経済・社会を循環させ、地域全体として活力が発揮できる自立・分散型の地域社会、つまりローカルSDGs^{えすでいーじーず}の実践に他なりません。

そのなかでも、市民総がかりによるごみの減量化や環境美化は、丹波市の生物多様性や美しい自然環境と景観を未来につなぐために大変重要であります。分別したくなる、分別しやすい施策によって、市民の皆様と一緒にまちをきれいにし、地球温暖化などの環境負荷の軽減を図っていきたいと考えており、その具体的な検討に着手します。

そして、グリーン成長を支える大きな資源として、森林があります。森林環境譲与税を活用しながら、林業を再び成長産業としていくための礎を築いてまいります。

とはいえ、グリーン成長が市民生活に悪影響を及ぼすことがあってはなりません。昨年6月には、議員有志の皆様から、太陽光発電施設と住環境との調和に関する条例制定について提言を受けました。提言のなかでは、再生可能エネルギーとしての太陽光発電の重要性を認める一方で、発電施設が市民生活に及ぼしている悪影響を規制すべきとの考えが示されております。

これを受け、ふるさと丹波市のすばらしい景観を、かけがえのない共有財産として未来へつないでいくため、太陽光発電施設と住環境との調和に向けた規制のあり方について研究を進めてまいります。

(2) デジタル技術による市民サービスの向上をめざす

2点目の「子育て世代・現役世代が魅力的に感じる丹波市」に向けて取り組むのが、デジタル技術による市民サービスの向上であります。国においては、デジタル庁創設を筆頭に、デジタル化を一気に進めようとしており、特に市民サービスの基盤として重視されているのが、マイナンバーカードであります。現在の丹波市のカード交付率は、1

月末時点で 20.51%にとどまっており、兵庫県下 41 市町中 40 位と、大変低い状況であることから、デジタル化の流れに乗り遅れることがないように、マイナンバーカードの取得の加速化を図るとともに、専門的な人材を配置し、マイナンバーカードを使った市民サービスの向上に向け検討を進めてまいります。

また、分庁舎方式の行政運営に対応するため、デジタル技術を活用して、どこにいても業務ができたり、定型的な事務作業を A I 等に任せたりすることで、職員の業務生産性と市民サービスを向上させ、行政運営の効率化と働き方改革にもつなげていきます。

(3) ふるさと移住の促進をめざす

3 点目の「帰ってこいよ・帰ってきたいと声かけ合える丹波市」に向けて取り組むのは、移住促進であります。これまでの移住対策は、空き家の利活用と移住支援が密接していたことで、ともすれば良好な空き家がなければ、移住につなげられないという課題がありました。

4 月からは、空き家の利活用は、市民の住生活全般を所管する建設部に移管し、移住施策は、本庁舎内に新たに設置するふるさと定住促進課に移管させます。

移住施策は、雇用、教育、子育て環境など、分野横断で体系立てて

進めなければ十分な効果が生まれません。出生から高校生までの成長過程に丹波市としっかりと結びつきを作り、大学卒業から出産・子育てのライフステージに合わせ、丹波市での暮らしを選んでもらえるような移住支援を進め、この機会に丹波市の魅力を高め発信し、丹波市への人の流れにつなげていきたいと考えます。

また、日本全体で人口減少を迎えるなかでは、単に人口が多くなればよいというものではなく、丹波市に愛着を持って、自分の力を発揮し、丹波市で活躍したいと考える移住者が増え、市民の皆様も市内外の方と一緒にあって応援し合える関係を広げていくことが重要であります。そして、そのような活躍人口が活動する場となる地域づくりを推進していかなければなりません。

次に、子育て支援策であります。丹波市では、年齢やニーズに応じた多くの子育て支援策を実施していますが、それが本当に子育て世代の暮らしやすさにつながっているのかをもう一度よく吟味しなければなりません。そして、子育て世代、現役世代が働きやすい丹波市にしていくことで、帰ってきやすいまちに転換していかなければなりません。

本年度は、子育て世代を中心とした市民の声を集めながら、地域を挙げたお祝いを形にするハッピーバース応援事業、子ども・子育て目

線で考える公園整備方針、そして、仕事と子育ての両立を図る病児保育について、検討を進めてまいりました。

それぞれ令和3年度予算で提案できたわけではありますが、さらにもう一步進めていくため、分野横断で検討を始めており、様々な角度から意見交換するなかで生まれている新しい発見や気づきを、施策のさらなる充実につなげてまいります。

以上の3点の市政運営の方向性に基づき編成しました令和3年度当初予算について、その主要施策を述べさせていただきます。

4 主要施策

(1) 市民みんなで取り組む安全・安心できれいなまちづくり

① 丹波市ならではのグリーン成長に向けた方針の検討

丹波市ならではのグリーン成長をめざしていくためには、専門家の意見や市民の声を反映させた方針づくりが重要です。

令和3年度は、市環境基本計画を見直し、生物多様性の保全やローカルSDGs^{えすでいーじーず}の検討を進めます。とりわけ、ふるさと丹波市の美しい自然風景を未来につなげていくため、市民総がかりでごみの減

量化、環境美化に向けた意識改革や行動変容に取り組みながら、丹波市ならではのグリーン成長に向け、方向性をまとめてまいります。

② 消防活動の充実

近年の自然災害は、激甚化・広域化してきており、人命の保護を第一に、被害の最小化や迅速な復旧など、減災・防災に向けた取組は、安全・安心のまちづくりの要であります。

令和3年度は、全国の消防本部で導入が進みつつあるドローンを配備し、災害活動はもちろん、山岳での負傷者の捜索、発災後の原因調査などに活用してまいります。

(2) 分野横断で取り組む生涯健康・生涯活躍のまちづくり

① 福祉相談支援体制のさらなる充実

本年度から、健康福祉部内に福祉総合相談係を設置し、「福祉まるごと相談」として身近な暮らしの困りごとの相談に乗り、必要な支援に結び付けていく取組を開始し、生活の自立や社会的孤立を防ぐための地域との接点づくりを進めてきました。

令和3年度は、この体制をさらに充実させ、市社会福祉協議会とともに、地域のつながりの再構築や、地域福祉と地域づくり、そして

相談支援の一体的展開を図ってまいります。

② 高齢者の保健と介護予防の一体的実施

高齢化が進むなか、いくつになっても自分らしく暮らしていくためには、健康と生活両面から支援していくことが重要です。これまで、高齢者の健康面をチェックする健診は後期高齢者医療広域連合、生活面をチェックする介護予防は丹波市、と実施主体が分かれており、高齢者の生活ニーズに合ったきめ細かな事業の実施が十分ではありませんでした。

令和3年度からは、健康福祉部門の司令塔となる保健師を介護保険課に配置して、健康施策と介護予防施策を一体的に実施し、地域全体で高齢者を支えるまちづくりを実践していきます。

③ 権利擁護支援センターのあり方の検討開始

本年度は、福祉分野の最上位計画であります地域福祉計画をはじめ、第8期介護保険事業計画や第6期丹波市障がい福祉計画などを策定し、福祉施策の体系化を一体的に見直した節目の年となりました。地域福祉計画には、子どもの貧困対策の推進や、成年後見制度の利用促進についても盛り込んでおり、令和3年度からは、計画に基

づき事業を進めていくこととなります。

特に、成年後見の分野では、様々なケースに対応できる法律・福祉等の専門性やネットワークを強化するため、丹波市に適した権利擁護支援センターのあり方の検討に着手します。

(3) 希望が叶い、みんなで子育てを応援するまちづくり

① 出会い・婚活相談の拠点づくり

丹波市の出生数は、近年、加速度的に減少しており、少子化の一因として挙げられるのが未婚化や晩婚化であります。

令和3年度から、市内の商業施設の一角に、気軽に立ち寄れる出会い・婚活相談の場を確保し、結婚を希望する独身者からの相談に対応し、出会いから結婚までを寄り添いながら支援していきます。

② ハッピーバース応援事業の開始

新しい生命の誕生は本当に尊いもので、「丹波市に生まれてきてくれてありがとう」という思いでお祝いし、「丹波市に生まれてよかった」と感じていただけるよう支援していきたいものです。

このような思いを実現すべく、本年度は、地方創生推進プロジェクトとして、出産や成長に対する地域を挙げたお祝いを形にする取

組を分野横断で検討してきました。

令和3年度からは、ちーたんバッグに、市産材の木のおもちゃ、赤飯レトルト、赤ちゃん向けの番茶などの丹波市ならではの製品と、紙おむつなどを捨てやすい小のごみ袋をハッピーバース応援ギフトとして贈る取組を始めます。この取組には、丹波市産材の加工事業者、武庫川女子大学や金融機関に関わっていただき、^{さんかんがく}産官学^{きん}金連携の成果でもあります。

併せて、妊娠・出産に伴う経済的負担を軽減するため、妊娠前診察費の助成に取り組めます。

③ 新たな病児保育施設の開所

丹波市で生まれたお子さんには、元気に育てていただきたいと願っておりますが、子どもが病気になったときの対応は、子育ての悩みの1つです。

丹波市でも、共働き家庭が増えており、子どもがインフルエンザなどに感染すると、たちまち仕事と子育ての板ばさみになって困る、といった声を聞きます。

このため、本年度の地方創生推進プロジェクトとして、子育てと仕事の両立支援を図るため、現在10か所の体調不良児型の病児保育

に加えて、インフルエンザ感染症等の療養中に利用できる病児保育施設の開所について検討してきました。

令和3年度も、引き続き市内全ての認定こども園で体調不良児型の病児保育を実施していただけるよう取り組むとともに、家庭に代わって保護者が安心して働き、子どもが安心して療養できる病児保育施設の開所に向けて取り組みます。

④ 子どもや子育て目線の公園整備

お子さんの成長とともに利用する機会が増えていくのが公園です。ゆとりのあるきれいな公園空間は、私たちの日常を豊かにしてくれるものですが、このコロナ禍では、一層その重要性が増しています。

本年度の地方創生推進プロジェクトとして、たくさんある市立公園のなかから、特に重点的に整備すべき11の公園を取り上げ、「都市・自然環境を活かした公園整備方針」をまとめました。令和3年度は、整備方針に基づき、特色ある公園づくりに向け、氷上さくら公園の展望台や三ツ塚児童公園の遊具の修繕を実施し、令和6年度までに順次整備に取り組んでまいります。

(4) 地域から始める誰もが主役のまちづくり

① 住民自治機能への支援の加速化

地域づくりについては、自治協議会を中心とした持続可能な住民自治に向け、数年にわたり検討を行い、令和元年度末には「自治協議会のあり方懇話会報告書」をまとめており、多くの関係者のご尽力のおかげをもちまして、課題は明確になりました。

この報告書に基づき、令和3年度からは、デジタル化による事務局支援、地域支援体制の強化、地域づくり交付金の制度改革の3点を中心に、創意工夫のある取組を積極的に実践していきます。

まず、市と自治協議会の間で事務負担が大きく、本来業務に支障をきたしているという声を踏まえ、クラウドサービス^{きんとん}Kintoneなどを活用して、煩雑な地域づくり交付金事務の完全オンライン化を始めます。また、市民活動支援センターと連携し、より地域に寄り添った重点的な地域づくり支援が行えるよう体制を強化してまいります。

加えて、住民主体の活動に対して交付している地域づくり交付金につきましても、公平性を担保し、より効果的な活用ができるよう、制度の見直しに向けた検討を進めてまいります。

② 新たな公園整備に向けた基本計画の策定

山南中学校の移転新築に伴い、新たな公園を和田中学校用地に整

備することはすでにご承知のとおりでございますが、令和3年度は、施設内容や機能をまとめた整備基本計画の策定に入ります。

この新たな公園も、さきほどの「都市・自然環境を活かした公園整備方針」で重点的に整備すべき11の公園に含まれています。公園整備方針を策定するなかで寄せられた市民意見では、遊具、トイレや手洗い場などの整備のほか、天候を気にせず屋内で遊べたり、遊びと学びが両方できて、市民が集えたりする公園についても要望がありました。

様々な利用者にとって魅力ある公園機能となるよう、地元や利用者、子育て世代の皆様などの声を伺いながら、整備基本計画を策定していきます。

③ スポーツ・文化の魅力推進

新型コロナウイルスの感染拡大は、あらゆる方面に影響を及ぼしましたが、スポーツの分野も例外ではありません。つかさグループいちじま球場で20年以上にわたり開催されてきた全国高等学校女子硬式野球の選手権大会やその代替大会も開催中止に追い込まれました。

白球を追いかける女子球児の熱戦は、丹波市の夏の風物詩であり

ます。令和3年度は、熱戦にふさわしい球場となるよう、つかさグループいちじま球場の大規模改修工事の設計業務を行い、令和4年度の工事着手につなげてまいります。

また、ライフピアいちじまホールにある“世界最高峰のフルコンサートピアノ”、スタインウェイピアノを末永く使うべく、ピアノ本来の音色や性能を取り戻すオーバーホールを行うとともに、その音色を楽しんでもらえるよう試奏会を行います。

(5) 暮らしを支える快適生活のまちづくり

① 暮らしを快適にする生活基盤整備

住み慣れた地域で安心して快適に暮し続けるためには、生活基盤の整備は欠かすことができません。

河川整備では、豪雨による氾濫を防ぐ対策として、^{みずかみがわ}水上川など8河川の測量や工事等を行うほか、^{むろちがわ}室地川など6河川の土砂撤去工事を実施するとともに、水災害による被害を最小限にとどめるために必要な修繕工事を実施し、河川の長寿命化を図ります。

道路や橋^{きょうりょう}梁整備では、山南中学校の開校に合わせた谷川農免線の道路改良、^{あおだあくさ}辺地対策事業債を活用した市道青田阿草線の道路改良に着手するとともに、橋^{きょうりょう}梁の長寿命化によるコスト縮減を図るた

め、市橋梁^{きょうりょう}長寿命化修繕計画に基づき予防的かつ計画的な修繕や架け替えを行ってまいります。

② さらなる防災・減災に向けた内水対策

市内には、これまで豪雨のたびに、度重なる浸水被害に悩まされてきた地域があり、市民の生命や財産を守るため、内水対策は大変重要であります。

本年度から取り組んでいる北柏原川の一時貯留施設設置工事や、^{おうち}応地川の排水ポンプ設置工事などは引き続き進めていくとともに、長期的な内水対策に向け、令和3年度は、対策を実施する区域や目標とする整備水準などの基本的な事項を盛り込んだ雨水管理総合計画の策定を行います。

③ 公共交通の充実による生活利便性の向上

住み慣れた地域で住み続けるためには、市民の移動を支える公共交通の維持・発展が大変重要です。

令和3年4月から、交通事業者が運行する新しい福祉送迎サービスを開始します。安心して質の高い送迎サービスを低料金で提供することで、障がいのある人の社会参加と日常生活をさらに支援してま

います。

市民の皆様から要望の強いデマンド乗合タクシーについては、さらなる利便性の向上に向け、木曜日の試験運行の実施や地域間の乗り継ぎポイントの充実に取り組むとともに、以前から申し上げておりましたとおり、県立丹波医療センターへの直行便については、関係者と積極的に協議をしております。

また、来月3月13日から、JR福知山線全駅でI C O C A^{いこか}利用が始まります。これは、市を挙げて鉄道の利用促進を進めてきた大きな成果であり、これに併せて、市内駅を基点とするI C O C A^{いこか}利用に一定の還元を行う取組を始め、さらなる利用促進につなげてまいります。

④ 都市計画マスタープランや住生活基本計画の策定

令和3年度には、丹波市誕生から17年を迎えます。この間、丹波市では、北近畿豊岡自動車道の開通や、県立丹波医療センターの開院など、都市として発展してきました。

平成24年度には、おおむね20年後の都市の姿を展望しながら、丹波市都市計画マスタープランとして、全体構想及び6つの地域別構想をまとめましたが、令和3年度で計画策定から10年が経過す

ることから、さらなる丹波市の発展に向け、都市計画マスタープランの改訂を行い、丹波市のめざすべき都市像をまとめてまいります。

また、平成 28 年 3 月に策定した丹波市住生活基本計画も、計画策定から 5 年が経過します。令和 3 年度から令和 4 年度の 2 ヶ年をかけて今後の住生活に関する施策について検討を進め、住生活の安定的な確保・向上に向け、丹波市住生活基本計画を改訂します。

(6) 産業振興と観光資源を活かしたまちづくり

① 道の駅丹波おばあちゃんの里のリニューアル整備

丹波市は、但馬・丹後・阪神間の結節点に位置しており、舞鶴若狭自動車道と北近畿豊岡自動車道の春日インターチェンジは、丹波市を車で訪れる方にとっての玄関口と言えます。春日インターチェンジに近接する道の駅丹波おばあちゃんの里は、その立地条件の良さを活かし、当初の想定客数年間 23 万人から、令和元年度にはレジャー通過客数だけで 37 万人となり、1.6 倍に増加しています。

令和 3 年度は、地方創生関連交付金等を活用し、物産館の売り場面積を 2 倍に拡充し、新たに観光情報センターを設置するとともに、公園遊具、屋根付き渡り廊下や E V 急速充電設備いーぶいの設置など、安心して快適に楽しむことができる施設にリニューアルすることで、さ

らなる観光客の増大と市内周遊の促進をめざします。

特に、公園遊具は、発達段階に合わせて遊び方を工夫できるよう分散配置するとともに、市内外から多くの方が行き交う好立地であることを踏まえ、ユニバーサルデザインの遊具を整備し、地域共生社会に向けた取組の1つとしていきます。

② 観光周遊の再活性化

令和3年度は、先ほど述べました道の駅のリニューアル整備だけではなく、周遊しながら市内観光を楽しんでもらう仕掛けづくりや快適に利用してもらえる観光施設づくりに取り組んでまいります。

市内周遊バス旅行への支援を拡充し、市外の方はもとより市内の方にも、魅力ある市内の観光スポット、食、特産品などを知ってもらおう取組や、道の駅丹波おばあちゃんの里を起点に、^{かさ}重ね^お擦しのスタンプを活用した市内周遊スタンプラリーを実施し、丹波市の四季折々の魅力を多くの方に楽しんでいただきたいと考えております。

また、丹波悠遊の森の常設テント等の設備更新、JR柏原駅構内のウッディプラザ山の駅の外装工事を実施し、より快適に施設を利用いただけるよう取り組んでまいります。

③ 歌道谷公共用地活用の方向性検討

昨年 10 月から実施しております歌道谷公共用地の基礎調査については、3月に調査結果がまとまります。新型コロナウイルスによる経済への影響はまだまだ見通せませんが、調査結果を受け、どういった活用方法が考えられるのか、また、土地利用としてどのようなニーズが見込めるのかなど、引き続き庁内検討を行ってまいります。

(7) 暮らしを支える森と農業づくり

① 暮らしと共にある森づくりの推進

丹波市の景色に目をやりますと、どこにいても山や森が目に入ります。丹波市の山々は、自然風土や私たちの暮らしに有形無形の恵みを与えてくれています。

森林は、産業としてだけではなく、地球温暖化防止や減災などの公益的機能を持っていますが、これを支える仕組みとして、昨年度から森林環境譲与税の配分が始まりました。

これまで十分に取組みなかつた森林整備を行う上で貴重な財源であり、従来からの緊急防災林整備事業や森林吸収源整備事業に加え、新たに手入れ不足の人工林における広葉樹への転換を促進し

ていきます。

② 環境にやさしい農業の推進

丹波市には、丹波大納言小豆や丹波黒大豆、水稻など、「丹波ブランド」と呼ばれる農産物がございますが、農産物の品質向上にとって重要であるのが、土づくりであります。

丹波市では、市島有機センターで良質な堆肥を生産し、土壤改良や地力ちりょくの増強に寄与してきましたが、今まで以上に良質な堆肥が生産できるよう、生産施設に新しい発酵方式による機械設備を導入し、環境創造型農業のさらなる推進につなげていきます。

また、丹波市には、有機農業の分野で全国有数の歴史があります。平成 31 年 4 月に開校した農みのりの学校の受講生は、1 期生が 15 名、2 期生が 12 名、そして、令和 3 年度には 3 期生として新たに 20 名の入学を予定しております。農みのりの学校で学んだ受講生の半数以上が丹波市で就農し地域農業の担い手となっており、引き続き、有機農業の栽培技術や最新の農業経営が学べる場として、特色ある学校づくりを推進していきます。

③ 農福連携の推進

農業分野では、高齢化などにより後継者不足が深刻化していますが、一方で、障がい者の雇用先として農業に進出する法人が増え、障がい者の雇用拡大のみならず、生きがいや自信の創出も期待されています。

丹波市で暮らせば、農業は身近にあるものでありますが、それは、福祉分野でも同じで、市内では、障害福祉サービス事業所が先進的に農業に取り組まれている事例があり、丹波市は、農業と福祉が連携しやすいまちと言えます。

令和5年度には、現在、丹波篠山市にある障害者支援施設が、旧県立柏原病院跡地に移転整備され、移転後は、農福連携を強力に推進される予定となっております。現在、県、市や地元自治会等とで農福連携推進検討会議を設置し、推進体制について協議を行っているところであり、令和3年度も引き続き検討を重ね、農福連携促進策の具体化を図ってまいります。

(8) 一人ひとりに寄り添い、将来の丹波市を担う人づくり

① コロナ禍がもたらす学びの変革

新型コロナウイルスは、私たちの暮らしに大きな影響を与えてお

り、教育の現場でも同じであります。

次世代を担う丹波市の子どもたちの学びが、新型コロナウイルスによって足止めされることなく継続していくよう、私たちが知恵を絞る必要があります。

コロナ禍を受け、国では、小学校全学年での35人学級や、小学校高学年の教科担任制が導入される予定であるなど、学びの形が大きく変わろうとしています。

丹波市では、令和3年度から、1人1台のタブレットパソコンを日常的に活用した学習が本格的に始まります。各校に配置したスクール・サポート・スタッフが学校施設の消毒作業を担うなど、感染拡大防止に十分留意しつつ、一人ひとりの可能性を伸ばす教育を実践してまいります。

② 山南中学校整備工事に着手

令和3年度は、令和5年4月の山南中学校開校に向け、いよいよ校舎建設工事に着手します。

地域景観との調和を図りながら、丹波竜化石を意識したぬくもりのあるアースカラーの校舎に、市立中学校で初めてランチルームを設けます。そして、ランチルームの壁の部分には、山南地域の伝統

産業であり、ユネスコ無形文化遺産として世界に認められた伝統建築技術であります檜皮葺の仕上げを採用するなど、令和の時代にふさわしい中学校として整備してまいります。

5 新型コロナウイルス対策とデジタル化の推進

(1) ワクチン接種の推進

冒頭でも述べましたとおり、昨年の春以降、感染拡大が第1波、第2波、第3波と続いており、市民生活への影響が長期化しています。新型コロナウイルス対策のうち、市民の皆様^{もっか}の目下、最大の関心事であるのが、ワクチン接種であります。

すでに2月中旬から医療従事者の接種が始まっており、4月からは高齢者の接種が開始される見込みであり、順次、希望する市民の接種が行われます。新型コロナウイルスに打ち勝つためには、日本、そして、世界全体が協力してワクチン接種を進めなければなりません。丹波市といたしましても、市医師会のご協力をいただきながら、迅速かつ安全にワクチン接種が行えるよう体制を整えてまいります。

(2) 感染症による生活・社会影響の緩和

ワクチン接種が進んだとしても、新型コロナウイルスがもたらした

社会経済活動の停滞がただちに解消されるものではありません。また、コロナ禍がもたらす社会変容にも対応していき、持続的な丹波市の発展につなげていかなければなりません。

令和3年度も、「恐れすぎず、されど、侮らず」の姿勢で、①感染症の予防、②市民生活の安定、③地域経済の再活性化、④ポストコロナ社会への対応、の4つの方向性のもと、感染状況を勘案しながら、適時適切に施策を実行してまいります。

(3) デジタル化とさらなる行政改革の推進

デジタル化は、コロナの先の未来に向け、なくてはならない成長の原動力の一つであります。さらに、丹波市のように加速度的な人口減少を迎えている自治体にとっては、市民サービスの向上と効率的な行政運営の両立を図るうえで、1番に取り組んでいかなければならない分野であります。

昨年には、デジタル市役所の推進方針をお示ししておりますが、その中でも令和3年度は、テレワーク環境の整備、^{あーるびーえー} R P A ・ ^{えーあいー} A I - ^{おーしーあーる} O C R や議事録作成支援システムの導入など、行政組織のデジタル化を強力に推進し、業務効率化に努めてまいります。

また、市民サービスのデジタル化では、戸籍附票証明書の記載事項

を追加することでコンビニ交付の促進を図るとともに、市役所窓口でのキャッシュレス決済の導入などに取り組んでまいります。

そして、規制・制度の見直しの一環として行政手続に関する押印等
の見直しに取り組み、市民の利便性向上につなげてまいります。現在、
押印を求める全ての行政手続きを調査しており、対応可能なものから、
段階的に廃止してまいります。

6 令和3年度当初予算

これら令和3年度の施策を展開するための予算として、

一般会計	346 億円
特別会計	158 億 8,620 万円
公営企業会計	108 億 4,000 万円
合計	613 億 2,620 万円

を計上しております。

一般会計は、前年度と比較しますと、10 億円、3.0%の増となっております。また、特別会計は、1,270 万円、0.1%の減、公営企業会計は、6 億 300 万円、5.9%の増となり、全会計で 15 億 9,030 万円、2.7%の増となっております。

7 結びに

旧6町が合併して丹波市が誕生してから、16年が経ちました。

その間、多くの先輩諸氏のご尽力によって今日の丹波市があるのは皆様ご承知のとおりでございます。丹波市の良さは多様性であり、旧6町が1つにまとまった良さと、それぞれの地域が持つ魅力、この両面があります。

今後も人口減少が進むなか、市民の利便性と行政運営の持続性を両立させるためには、6つの地域の多様性を活かしつつ、1つにまとまった良さを発揮し、都市構造が整理された中心部とそれを補完する東部・西部・南部の3つの区域の形成をめざしていくことが求められます。

しかしながら、そのためには、3つの区域のなかで、特に人口減少が顕著にみられる青垣・市島・山南地域の活力を保ち、その周辺一帯が帰りたくなる、住みたくなるような地域であり続けることが大変重要であります。それぞれの地域特性を踏まえながら、3つの地域の活性化のあり方を描いていくことは、全市的な中心部の形成にも寄与していくものと考えます。

全市的な都市の形成は、次期都市計画マスタープランを策定するなかで、具体の都市計画の体系的な指針となるよう議論を重ねてまいります。令和3年度からは、この全市的な都市の形成の議論とともに、

3つの地域の活性化について、市民と対話しながら、地域の活力が発揮できるよう、それぞれの形で自立・分散型の地域の形成を進めていきたいと考えております。

もちろん、新型コロナウイルス対策は、コロナの先の未来を見据え、大きな声で「おかえり」、「ただいま」と言い合えるその日までしっかり取り組むとともに、市政の推進に最大限尽力していく所存であります。

議員の皆様や市民の皆様には、一層のご理解とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます、令和3年度の施政方針といたします。

ご清聴、ありがとうございました。